



サイクス (S I C S) は、産業情報支援センターの運営組織である、(株)西条産業情報支援センターの愛称です。

今月は、サイクスが取り組んでいる地元産材の有効利用と需要拡大に向けた事業について紹介します。

地域産木材活用の可能性を探る

木造ユニット工法システムの開発

■新工法システムの開発

サイクスでは、東京大学などの支援のもと、地域産木材の有効利用と、需要拡大を目的とした「集成材パネルの製造とそれらを用いた工法システム」を開発しました。

集成材パネルとは、スギなどの間伐材や小径材を活用し、それら十数枚を圧着することで強度を確保したパネルのことです。去る3月には、このパネルを床や壁・屋根等に用いて製作した、ボックスタイプの木造ユニットの試作品の展示・公開を行いました。



サイクスが開発し公開した木造ユニットボックス

■広がる

木造ボックスの可能性

日本は国土の約67パーセントが森林と言われていますが、その十分な整備が行われていないのが実情です。地球温暖化防止の観点からも、国産材の有効活用が求められています。

このような中、東京大学大学院木質材料研究室をはじめ、市内外の企業などの協力のもと、集成材の建築用資材としての可能性の研究や検証を行い、木造ユニットボックスを試作しました。また、2月と3月には、国産材の活用方法や乾燥技術、木造ユニット工法の特徴や可能性に関するセミナーを、サイクスが主催し開催しました。セミナーでは、東大大学院の安藤直人教授が講演し、この工法の特徴である、簡便で施工性が高いことや、製作・分解がスピーディーで再利用が可能であることなど、経済的にも優れていることが紹介されました。



セミナーで新工法システムの優位性について語る安藤教授

ボックスはトラックなどでの運搬を想定し、奥行き約2.5m・幅約5m・高さ約3mのサイズとし、イベントなどでの設置のほか、災害時の仮設住宅としても利用することが可能なものとなっています。

安藤教授はこれらの優位性を踏まえ、将来的には仮設住宅として利用した後にボックスを運搬し、複数を組み合わせて一般住宅として利用することも考えられるとしています。

現在、省エネルギーや環境への配慮などから、木材の価値が見直されつつあります。この工法の開発と研究成果が、今後の地域の木材資源活用の起爆剤となることが期待されています。

入居者募集のお知らせ

インキュベータ室・SOHO支援室 入居者募集

サイクスでは、インキュベータ室・SOHO支援室に入居する企業や個人を募集しています。

いずれの部屋も24時間利用可能であり、インターネット回線が整備されているほか、あらゆる経営相談にお応えできる環境を用意しています。

■入居資格

○新たに事業化に取り組みようとする方

○新たな事業分野への進出、研究開発に取り組みようとする方

■入居期間

○インキュベータ室

：4年以内

○SOHO支援室：2年以内

■入居決定について

事業計画のヒアリングおよび審査のうえ、入居の可否を決定します。

■申込み・問合せ

部屋の仕様や入居申請など詳細は、産業情報支援センターへお問い合わせください。

TEL 0897-53-0010